



始まりは、農業用水路で、その後運河として活躍した創成川。水運の役割を終えた後も、この通りは、狸小路や二条市場との接点として重要な役割を果たします。札幌祭りには屋台やサーカス小屋が並んだほか、市民の水辺として親しまれました。

やがて、自動車交通の増加から、幹線道路としての機能が求められるようになりました。昭和四十六年には、大きな通りと交差する部分の交通を円滑にするため、南北二つのアンダーパスが建設されました。

一方で、残念ながら市民の創成川への親しみは、以前よりも少なくなりました。



大正9年。北3条付近から南を望む



昭和32年。完成間もないテレビ塔から



創成川北アンダーパス（テレビ塔付近）



創成川通

都心に潤いと憩いの空間を生み出す「安らぎの軸」

事業計画と市民議論

連続アンダーパスを整備します

- 人が水辺に近づきにくい
 - 片側4車線部分の騒音などの環境改善が望まれている
 - 都心部を利用する車と通過するだけの車が混在し、道路が混雑している
 - 東西の市街地を分断している
- 都心部の交通混雑を和らげるとともに、通過交通を分離して、歩行者の安全を確保し、水に親しめる空間を生み出すために計画されたのが連続アンダーパスです。計画は左上の通りです。